静岡大学　情報学部

情報科学科

高校生へのニューズレター

第 1 号（2012.07）

情報科学科は理系入試！

この号の内容

1 情報科学科は理系入試！

2 峰野博史研究室紹介
（ユビキタスセンサネットワーク）

3 佐治 斉研究室紹介
（画像情報処理）

4 楽しいこともしんどいこともみんなで共有
（今川 綾）

「ものづくり」の地、浜松で
文工融合の学問を学ぼう

2013 年度から、推薦入試が「センター試験を課す方式」に変わりました！

前期日程試験

- センター試験：4 教科 5 科目（国，理科から 1，数，外国語）
- 個別試験：数学，外国語
- 特徴：**数学の配分が 500/1100**

後期日程試験

- センター試験：5 教科 7 科目 or 6 教科 7 科目
  （国，地歴・公民／理科から 3 ※，数，外国語）
  ※　地歴・公民から 1，理科から 1 を必ず含む
- 個別試験：数学
- 特徴：**数学の配分が 600/1250**

＊いずれも、2013(平成 25)年度入試です。また、推薦入試・AO 入試もあります。

（情報科学科出身の学生有志による「ＥＴロボコン」参加チーム）

"メリハリを持って「今」という時間にベストを尽くして欲しい "

峰野博史研究室（ユビキタスセンサネットワーク）

快適性を維持しながら
節電って実現できる？

Q：先生はどのような研究をしているのですか？

A：当研究室では、ICT (Information and Communication Technology) を活用したユビキタスセンサネットワークの応用研究を進めています。例えば、グリーン化「Green by ICT」に関して、各家庭やオフィスで異なる生活環境へ適応的な導入ができるような仕組みを研究しています。また、情報学だけでなく農学や医学分野等との異分野連携も意識しながら、応用研究への展開と基礎研究への回帰を繰り返しながら国際連携や学術研究機能の拡充を目指しています。

Q：その研究は世の中でどのように活かされていますか？

A：大学キャンパス内の消費電力を見える化する仕組みや、電力消費状況を電子メール等で知らせる仕組み、電力使用状況に応じてエアコンの動作を自動制御する仕組みなどへ研究成果を展開させています。将来は、各建物や部屋で異なる生活環境へ適応的な導入ができ、利用者の行動様式や好み、ゆくゆくは自然との共生をも考慮しながら適応していくようなスマートな仕組みに発展させていきたいと思っています。

Q：大学に入るまでに高校生にやってもらいたいことは？

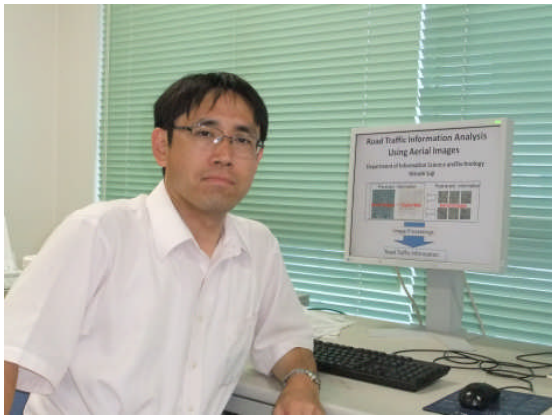
A：クラブ活動でも趣味でも勉強でも、将来の子供に胸を張って話せるまで頑張ってみてください。その際、メリハリを持って「今」という時間にベストを尽くし、目的意識と競争意識を持って時間に対してもセンシティブであることを忘れないで欲しいと思います。

Q：研究室の雰囲気は？

A：写真は、サウジアラビア国立 Jazan 大学の皆さんが来られた時の様子です。OB 会や歓迎会、対外発表、企業との共同研究打合せなど、様々なイベントを通じて各自のペースで伸び伸びと人生経験を積んでいけるような雰囲気です。自主性を持ち、かつ周りの人を巻き込んで新しい分野を切り開いていけるような人材に育っていって欲しいなと思います。

" 大学卒業後を見据え、世の中で活躍できるためのいろいろな力を身に付けて欲しい "

佐治 斉研究室（画像情報処理）



Q：先生はどのような研究をしているのですか？

A：私は、人工衛星やヘリコプターなどにより上空から撮影された画像を使った道路交通情報の解析について研究しています。地震災害後の衛星画像から、通行不能の場所がわかる道路閉塞図をコンピュータで自動生成したり、平常時の衛星画像から、自動車が集中している渋滞個所を自動推定したりする研究です。

Q：その研究は世の中でどのように活かされていますか？

A：上空からの撮影画像を使うことで、車両感知器など地上の機器が故障していたり、設置していなかったりという場合でも道路交通情報が得られるというのが特長です。災害時で地上の機器が使えなくても避難や救援活動のための安全な通行ルートを案内する、山間部でもともと機器がない場所の渋滞情報を提供して事故防止に繋げる、といったことに役立ちます。

大災害時に安全な避難ルートの情報を提供するには？

Q：高校生にやってもらいたいことは？

A：大学受験のための勉強にとどまらず、大学卒業後に世の中に出たときのことも考えて、いろいろな力を身に付けておいてほしいと思います。例えば、自分の考えを筋道立てて他人に伝えられる力、他人と協力して一つの仕事をやり遂げる力、周囲の意見をとりまとめてリーダーシップを発揮する力などです。

Q：研究室の学生の様子は？

A：情報科学科で実験や演習の経験を積み技術を十分に身に付けた学生が、その技術を世の中に活かすことを考えながら、まじめに研究に取り組んでいます。大学内に留まることなく、官公庁や企業をはじめ学外の方々とも頻繁に意見交換し、世の中全体の動きを見据えながら、みな活躍しています。

楽しいこともしんどいこともみんなで共有 —— 情報科学科に学んで

今川 綾　（情報科学科　４年）

情報科学科 CS プログラムの目玉授業は、何といっても３年次の情報科学実験です。私はものづくりが好きで、コンピュータの心臓部の電子回路を自作するハードウェア実験が特に印象に残っています。何度やってもうまくいかず、徹夜したこともしばしば。同じ班の仲間と協力して最後の最後動くものができたときの達成感は忘れられません。

卒業研究では、耳が不自由で人工内耳を装用している方に音楽を楽しんでもらうための研究に取り組んでいます。人工内耳の音は品質が低く、話し声を聞くのがやっとで、音楽を聴くのはとても難しいのですが、そこを何とかしたい！というのが研究の動機です。これまでの研究では単音のメロディだけの楽曲しか扱っていなかったのですが、私はそれに和音を入れて豊かな音楽にしようと試みています。同じテーマの先輩と試行錯誤を重ねて楽曲データを作成し、人工内耳を装用されている方に、新しい和音の音楽の方が品質がよいと言っていただいたときは感激しました。

（手に持っている茶碗は自作です）

サークル活動では、茶道部に所属しています。入部のきっかけは、高校から茶道をやっていた友人に誘われ、おいしいお菓子が食べられる！という単純なものでした。いざやってみると奥が深く、季節や場所によって使う茶器やお菓子が変わるのですが、その組合せの妙は難しい半面、面白いです。私は茶碗を自分で創ったのですが、その茶碗をお茶会の席で褒められたのは嬉しい思い出の一つです。

情報学部では、入学した学生は何らかの委員になるのですが、私は大学祭実行委員を担当しました。11 月の静大祭＆テクノフェスタ in 浜松の実働部隊として、私はライブコンサートの運営に携わりました。チケット配布や当日の会場係など、やるべきことが盛りだくさんでてんてこ舞いでしたが、仲間や先輩と一緒に臨機応変の対応で何とか成功させられたのは、とてもいい経験になりました。

静岡大学情報学部　広報委員会

〒432-8011　静岡県浜松市中区城北３－５－１

電話番号:053-478-1510　　FAX 番号:053-478-1513

電子メール: pr-gakumu@inf.shizuoka.ac.jp